

イクヒカリの栽培ごよみ（県北中部対象）

月 日	5月					6月					7月					8月					9月																																		
	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30																									
生育経過 日数						-20 播種						0 移植						-25 幼穂形成期 最高分けつ期 有効分けつ終期						-12 減数分裂期						0 出穂期						+35 成熟期																			
生育段階						育苗(20日苗)					活着					分けつ期					幼穂形成					穂ばらみ					登熟期																								
水管理						代かき										中干し					間断かんがい										落水 (早期落水は品質低下)																								
病虫害 および 雑草防除						シシガレセンチュウ 褐条病 もみ枯細菌病 ばか苗病					ツマグロヨコバイ ウンカ病 イネミズゾウムシ ニカメイチュウ					雑草防除 いもち病 箱処理剤										トビイロウンカ 紋枯病 いもち病					カメムシ類 トビイロウンカ いもち病 ニカメイチュウ					※薬剤は使用基準を遵守して使用する。																			
施肥	土壌改良材					基肥					穂肥1					穂肥2					施肥例(N成分kg/a)																																		
																					<table border="1"> <thead> <tr> <th>基肥</th> <th>穂肥1</th> <th>穂肥2</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.5</td> <td>0.25</td> <td>0.25</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>					基肥	穂肥1	穂肥2	合計	0.5	0.25	0.25	1.0																						
基肥	穂肥1	穂肥2	合計																																																				
0.5	0.25	0.25	1.0																																																				
栽培管理 の要点	◎ 稲ワラ全量還元					◎ 地力・土壌診断に応じて ◎ 土壌改良					◎ 健全育成 ◎ 薄播きの励行 ◎ 十分に浸種する ◎ 適確な種子消毒 ◎ 塩水選の励行					◎ 緑化・硬化は早めに					◎ 箱処理剤の施用 ◎ 太植はしない ◎ 株当たり植付本数3〜5本					◎ 活着までは深水 ◎ 除草剤散布後は止水					◎ 分けつ期の葉色うすい ◎ 分けつ期は浅水で分けつ確保					◎ 穂肥の適期施用 ◎ 地面に軽く亀裂が入る程度 ◎ 中干しの励行					◎ 特に注意する病虫害 ◎ 発生に応じた適期防除					◎ 出穂期以降は窒素を施用しない ◎ 出穂期以降は窒素を施用しない ◎ カメムシ ◎ トビイロウンカ ◎ 紋枯病					◎ 袋詰めは30.5kg以上 ◎ 適正な出荷 ◎ 整粒歩合70%以上 ◎ 調整は強め ◎ 過乾燥は避ける ◎ 適切な乾燥調整				
目標収量と 収量構成要素	目標収量 550kg/10a					m ² 当たり株数 18.5株					株当たり穂数 18本					1穂粒数 88粒					登熟歩合 80%					玄米千粒重 23.5g					1等米比率 80%以上																								

イクヒカリの栽培

1 特 性

品 種	移植期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/m ²)	玄米収量 (kg/a)	玄米千粒重 (g)
イクヒカリ	6.15	8.09	9.12	76.1	19.1	317	57.3	23.3
キヌヒカリ	6.15	8.10	9.14	80.1	18.2	307	55.8	22.5

注) 農業試験場(紀の川市貴志川町)2001~2007年平均値

2 播種と育苗

☆箱当たり播種量は180g(催芽籾)程度。

☆浸種・催芽は十分に行う(積算温度120℃程度まで…キヌヒカリより1~2日長く)。

☆発芽直後や低温期はキヌヒカリより伸長しにくい、気温が上がってくると伸びやすくなる。

3 田 植 え

☆栽植密度18~20株/m²(条間30cm、株間16~20cm)。

☆植え付け本数は、3~5本/株

☆移植時期は5月末~6月下旬だが、6月20日頃が最も適する(県北中部)。

4 施 肥

☆施肥量はキヌヒカリ並かやや多目とする。

☆特に生育期前半はキヌヒカリよりも葉色が淡いが、過剰な施肥はしない。

☆1回目の穂肥は、キヌヒカリと同様の出穂前25日とする。

☆登熟期後半の肥料切れで品質が低下しやすいので、2回目の穂肥はキヌヒカリよりやや遅い出穂前10~7日とする。

☆施肥例(水稲単作の地力中庸な水田)

施 肥 時 期	基 肥	出穂前25日	出穂前10日	合 計
施用窒素量(kg/a)	0.5	0.25	0.25	1.0

5 防 除

☆いもち病には強いが、通常の防除(箱処理剤等)は行う。

☆紋枯病、白葉枯病、縞葉枯病には弱いので適期防除に努める。

☆ニカメイチュウの被害を受けやすいので発生予察情報に注意し、適宜防除する。

6 収 穫

☆青籾が10%程度残っている時期に刈り取る。

☆穂軸や茎葉は収穫時期にも色が抜けきらない場合があるので、籾の色で判断する。

☆出穂期から刈り取り適期までの積算気温は900~1070℃程度。

☆刈遅れは玄米の光沢低下、胴割れ粒の増加など品質低下を招くので必ず適期に刈り取る。

出穂期	出穂期~ 収穫適期 までの日数*	収 穫 期	出穂期	出穂期~ 収穫適期 までの日数*	収 穫 期
8/1	34	9/1~9/8	8/11	35	9/12~9/19
8/2	34	9/2~9/9	8/12	35	9/13~9/20
8/3	34	9/3~9/10	8/13	35	9/15~9/22
8/4	34	9/4~9/11	8/14	35	9/16~9/23
8/5	34	9/6~9/12	8/15	36	9/17~9/24
8/6	34	9/7~9/13	8/16	36	9/19~9/25
8/7	34	9/8~9/15	8/17	36	9/20~9/27
8/8	35	9/9~9/16	8/18	36	9/21~9/28
8/9	35	9/10~9/17	8/19	37	9/22~9/29
8/10	35	9/11~9/18	8/20	37	9/23~10/1

注) 和歌山市平年値

(平成20年1月 和歌山県農業試験場)

*収穫適期は積算気温約950℃の日とした

来 歴

福井県で育成され、平成16年9月に「イクヒカリ」として命名登録された(旧系統名:越南176号)。

和歌山県では平成18年2月に県奨励品種に採用された。

